



人権啓発課
☎32-1708 FAX 32-0110
✉jinkenkeihatsuka@city.uki.lg.jp

男女共同参画社会推進委員会 会長・副会長を紹介

男女共同参画社会推進委員会では、だれもが住みやすい社会を目指して、さまざまな活動を行っています。



会長 稲田 さゆりさん

熊本県地域リーダー国内研修に参加し、その縁で男女共同参画社会推進委員になって7年目になります。まだまだ勉強不足ですが、これは勉強しなければならないのだと、チャンスに変えて成長していきたいと思います。他の推進委員たちとともに地域のために活動していきます。



副会長 岡 早百合さん

性別にとらわれず、全ての人が、人権を尊重し、喜びも責任も分かち合い、個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会を実現するため、一人ひとりが参画社会を意識して、住みよいまちづくりになるよう、声を上げて推進していきたいと思っています。



副会長 月田 修さん

日本のジェンダーギャップ指数が世界ではかなり低いことが報道などでよく知られています。市の男女共同参画の推進をどのように図っていくのか、先輩の推進委員たちの皆さまからいろいろと教えてもらいながら、これからも勉強していきたいと思っています。



商工観光課 ☎32-1604

オンライン相談を開始

市では、11月から相談員とオンラインで相談ができる「消費生活オンライン相談」を開始します。宇城市内でもさまざまなトラブルが起きています。困ったときは、一人で悩まず、まずはお相談ください。

相談は、Web 会議サービス「Zoom」を利用

【利用方法】

①事前申込

相談予約フォームから事前予約。その後、市消費生活センターより URL をメールで送付。

②相談実施

送付された URL を予約時間の数分前にクリック。Zoom が起動し、当センターが応答後、相談開始。

相談は 宇城市消費生活センター ☎33-8277 へ



「ねんきんネット」で将来設計を

11月30日は「年金の日」。この機会に、年金記録や年金見込額を確認し、将来の生活設計について考えてみませんか。

「ねんきんネット」を利用するとパソコンやスマートフォンからいつでも自身の年金記録のほか次のような機能がいつでも利用できます。

- ・将来の年金見込額の試算
- ・電子版「ねんきん定期便」の閲覧
- ・受給に関する各種通知書の確認 など

利用方法

マイナポータルまたは日本年金機構のホームページからログイン



詳しくはこちら

使ってみよう 公共交通

市の公共交通の今を隔月でお知らせ



企画課 ☎32-1902

自動運転バスを知ってますか

自動運転バスは、運転手がいなくても自動で走る乗合バスで、さまざまな交通課題を解決するために全国的に導入が検討されています。

この取り組みにより、バスの運転手不足の解消や交通渋滞緩和などが見込め、幅広い年代に多様な移動サービスを提供することが可能になります。

自動運転バスの仕組みは、運転手の走行データに基づき、デジタル地図やGPSなどを活用して運行。そのため、リアルタイムで道路状況を把握した最適なルートでの運行が可能になり、ヒューマンエラーによる事故防止にもつながります。

まだまだ普及していない自動運転バスですが、公共交通の課題や社会的課題を解決する可能性を持っています。移動手段を増やすことで、外出する機会をつくり、地域経済の活性化も図れます。

これからの公共交通に、自動運転を生かしていくことが求められるでしょう。

12月18日から実証実験を行います

市では、国土交通省の「令和6年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金」を活用した、自動運転社会実装推進事業を実施します。この事業は、地域のさらなる魅力化やスマートシティへの足掛かりを目的に、JR小川駅からイオンモール宇城までの区間を運行するもので、無料で試乗が可能です。詳細は、12月号でお知らせします。

11月23日⊕

小川ふるさと祭りで車両を展示

実証実験で使用される車両が11月23日の小川ふるさと祭りで展示されます。



使用車両 エヴォ

郷の記憶をたどる

文化スポーツ課 ☎32-1954

私たちが暮らす宇城市の郷土にまつわるさまざまな文化の魅力を発信します

郷土資料館



開館時間 10時～17時
休館日 月・木曜(祝日の場合はその翌日)
住所 豊野町糸石3818 ☎45-2102

2度目の侵攻 弘安の役

— 元寇って知ってる？④ —

文永の役に続く、元による2度目の侵攻を弘安の役といいます。1276年に、フビライ・ハンは南宋(現在の浙江省)を攻め落とし、その支配下にあった江南地域(揚子江の南)の強力な軍勢力と経済力を手に入れ、再度日本を侵攻する際の軍に編成しました。

そして、1281年に朝鮮半島から元軍本隊が、中国大陆の南側から江南軍が、再び博多湾を目指して出発しました。元軍4万人と船900艘、江南軍約10万人と3,500艘という大規模な軍勢でしたが、直前で江南軍の総司令官が病死したことにより、江南軍の出発が2カ月も遅れ、先に元軍本隊だけが博多湾に到達しました。

これに対し、鎌倉幕府は九州の武士に命じて博多湾沿岸に高さ2～3m、東西約20kmに及ぶ石積み(元寇防壁)を作らせ防衛体制に入りました。地頭として海東郷を治めていた竹崎季長

もここに合流し、防衛に加わりました。

到着したものの防壁によって攻めかねた元軍は、上陸できずに博多湾沖で待機し、付近の志賀島や能古島を襲撃するにとどまりました。そこに小舟に乗った日本軍が夜襲を仕掛け、多くの負傷者を出した元軍は上陸をあきらめ、江南軍が到達していた平戸島(長崎県)を目指して退却しました。



蒙古襲来絵詞に描かれた弘安の役の様子
(皇居三の丸尚蔵館収蔵)